

神のお告げ

2025. 10. 14

小・中学校国語の研究授業、授業づくり、単元構想、指導案作成、リーディングスキル等の相談に応じています。指導案を作成する前にご一報ください。授業に対する思いやこんな授業をやってみたいという、ぼんやりとした構想程度のものがあれば十分です。

学校や研究会、研修会などで指導助言や講話、講演を行っている。今年度は講話や講演が多い。必ず資料を準備している。その最後に、上記のメッセージを載せるようにしている。だが、実際に連絡がくることは滅多にない。逆の立場になって考えてみる。よほど知っている関係であれば、相談する気になるかもしれない。あるいは、知っているからこそ、自分の力のなさをさらけ出すようで嫌なのかもしれない。いずれにせよ、かなりハードルの高いことだと理解している。

今までもそうだが、そう願っていると、なぜかいい方向に動き出すことがある。福島市教育委員会教育研修課すなわち福島市総合教育センターで「放課後国語指導学習会」なるものを始めた。そのチラシには、「高澤正男先生が、あなたのお悩みにマンツーマンで答えます。」とある。内容としては、「国語の指導についてアドバイスがほしい」「子どもたちの読解力を向上させたい」「研究授業の指導案について助言を受けたい」と書かれてある。

まるで、私がやりたいことの背中を押してくれているかのようである。引き受けたはいいが、責任重大である。参加希望者によって、ニーズが違う。研究授業のことを相談したい方がいる。そもそも国語の授業をどのように進めればよいのか困っている方がいる。国語の授業の中で、子どもに読解力をつけるためには、どのような手だてがあるのか知りたい方がいる。3人いれば、3通りのオーダーがあることだろう。

マンツーマンなのだから、すべて個別対応でもよい。だが、それぞれのオーダーが単独で独立しているわけではないだろう。相互に関連しているはずである。そこで、考えた。テキストをつくることにした。「放課後国語指導学習会」のテキストである。もともと「誰にでもできる国語研究授業A to Z」を作成するつもりだった。「あなた、いつになったら始めるつもりですか。いい加減にしろ」という神のお告げなのだろう。

やらなくてもいいことは、なかなかやらないものである。ついに追い込まれた。やらざるを得ない状況になってきた。このテキストが、よりよい国語の授業を追い求める先生方にとっての羅針盤できればバイブルとなるよう、ベストを尽くさなければならない。全精力を注ぐ必要がある。それだけの価値があるものと考えている。